



優秀賞 下館 ころろ (しもだて ころろ) 松枝小 6年生

作品名：本当の幸せについて

図 書：銀河鉄道の夜

「銀河鉄道の夜」この物語は、少年ジョバンニとカンパネラが銀河鉄道に乗り、色々な人に出会います。この本は、みんなの幸せとは具体的にどのような事か、と考えると本です。

私が心に残った言葉は、「本当のみんなの幸せのためならば、ぼくの体なんか百ぺん灼いてもかまわない」という言葉です。

私は、自分よりみんなという考えを持つという事は、なかなかできないと思っています。しかし、世界中の人がみんなこの考えをもてば、争いがなくなり平和な世界になると思います。

そして、人を幸せにする事ができたら、きっと自分も同じ様に幸せになれると思います。なので、人に良い事をして損する時は無いと私は、思っています。

もう一つ心に残った言葉は、「ぼくたちどこだって行ける切符を持っているんだ。」という言葉です。

私は、この言葉を聞いて「切符＝強い思い」だと考えました。強い思いをもって、取り組みれば自分の夢が叶う、苦手だった事が必ずできるようになると思います。強い思いをもっていれば、どこまでだって何があろうと進むことができます。

この本で学んだ事は、たくさんありますが、一番は自分優先にしないことです。学校生活をしているのは、一人ではありません。もし、自分優先にしてしまうと、クラス・学年・学校という風で大勢の人にめいわくがかかってしまいます。

この本を読む前では、「これが終わったら。」と言ってしまっていました。なので、この本で学んだ事を忘れずに、これからの生活に活かしていこうと思いました。

本当の幸せは、なんだろうと自分で考え、もう一度確かめる必要があると思います。そして、みんなの事をよく考え、自分で努力をすれば本当の幸せという答えは、きっと見つかると思います。

銀河鉄道の夜は、色々な事を考えれる物語でした。世界のことや、学校生活について。自分で考えたり、この本で学んだことを一つ一つを忘れずに、毎日を過ごしていこうと思います。

私の夢は、人々を幸せにする事です。